

ダンボールコンポスト、出前講習の依頼あり！

ごみ・環境ビジョン 21 運営委員 田浪 政博

団地の住民からのお願い

ごみっと・SUNでも度々紹介している東村山市の美住リサイクルショップ（市長が委嘱した16名の運営委員を中心に運営）の運営委員長を、私が務めて長くなるが、年末にちょっとうれしい電話をもらった。

電話の主は副委員長でダンボールコンポスト講習会担当の篠原勇さん。なんでも市内の青葉住宅の住民から「ダンボールコンポストの講習会を、青葉住宅内の集会場でやってほしい。参加したいという人は10人くらいいる」と頼まれたのだそう。ダンボールコンポストの推進を市内で当初から担ってきたと自負する私からすれば、大変うれしいお願いである。

準備万端整えて…

講習会実施日は12月3日、参加者11名、参加費は500円となり、準備に入った。当日私が用意したものは…糠1kg袋を11袋、ヤマト運輸のダンボール箱（10号）、新聞紙、厚手のダンボール板をそれぞれ11人分。

市の環境資源循環部ごみ減量推進課の美住リサイクルショップ担当者が腐葉土20ℓ袋と布製ガムテープを用意した。

青葉住宅は、築40数年の3階建ての分譲住宅で、11棟に228世帯が暮らしている。町内には空堀川が流れ、近くにはハンセン病の施設として知られている国立療養所多摩全生園があり、緑も豊かだ。

さて、当日集まったのは11名（男性は1名）は50代から80代の方で、ふだんから仲が良いそう。

Myダンボールコンポストが完成

まずダンボール箱を組み立て、内と外の角に布製ガムテープを二重に貼る。ガムテープが短かったり曲がったりで、この作業にけっこう手こずった。

次にできあがった箱の底にダンボール板を2枚敷き、上に新聞紙を2枚重ねる。それから腐葉土を5cmほど入れ、上から糠を入れてよくかき混ぜる。それを繰り返して全部入れれば完成だ。



その後、ダンボールコンポストの使用方法を説明。このまま3日ほど置いておけば発酵してくるので、手を入れて暖かくなっていけば生ごみを投入できる。

生ごみは小指の先くらいの大きさに切ると分解が早い。投入したら必ずかき混ぜること。生ごみを入れなくても毎日混ぜる必要がある。入れられるものは、野菜くずの他にも魚の骨や油も、エネルギーになっていい。卵の殻は、小さくなっていくが消滅はしない、と説明する。

また、ラップの芯などを並べてその上にコンポストを置くと、底の下に空間ができて都合がよい。蓋を忘れずにもすることも大事。冬季になるとダンボール内の床が乾燥することがあるので、その場合はお湯を少し入れてしっとり感を保つことが必要だ。

参加者した方たちからは「参加費500円で生ごみを消滅させられるならごみ減量に貢献できるし、有料袋も買わなくて済んで節約にもなる」と喜ばれた。

質問として必ず出るのが「虫がわからないか？」「臭いが出ないか」。私の経験ではどちらもNOである。もしそうしたトラブルが起きた時には、簡単にやめてしまわずに、美住リサイクルセンターに相談してほしい、と伝える。

今回の出前講習を受けて、市報などに掲載する美住リサイクルショップのダンボールコンポスト講習会募集文には必ず「出前講習承ります！」の一文を入れることにした。